

作左通信



第七十六号 平成二十八年二月一日(月)発行

松平家(徳川)と六所神社

徳川の遠祖は清和源氏と

言われ源義家の孫の源義

重が上野の国・群馬県の新

田郷に移り住み新田義重と

名乗ったのが始まりで、九代

目に松平の租となった松平

親氏ちかうじがかみ出ました。

親氏は時宗じしゅうの僧となり徳

阿弥と名乗って諸国を流浪

しました。やがて三河に入る

と、加茂郡松平郷の土豪、

松平太郎左衛門尉さへもんじょう在原信

重の婿となつて還俗し、松平

親氏と名乗ったのが徳川の

始租であると言われています。

岡崎市明大寺町の「六所

神社」は、親氏が松平郷の松

平東照宮から二、五kmほど

東に位置する六所山に宮城

県塩釜郷の六所大明神を

勧請かんじようしたことに始まり、

家康の祖父の松平清康が

安城市から移り、明大寺に

あつた岡崎城を現在の地に

移し建てて入居した時、その

六所大明神を、豊田市松平

郷の六所山から、岡崎市明

大寺町に移し、家康誕生の

際には産土神うぶすなかみとして拝礼を

受けたと言ふことです。

六所神社の本殿、幣殿、
拜殿は三代徳川家光が建
立したもので、重要文化財に
指定されています。

六所神社の祭神は塩釜様
で古来「安産の神」として名
高く、家康の産土神と言う
こともあつて、現在は安産祈
願の神社として住民の厚い
祈念を受けています。



六所神社の山門

松平親氏が居館を構えた跡
に建てられました。

松平姓を徳川にあらため
たのは一五六六年に家康が
三河を統一し、三河全土を
支配下に収めた時でした。

松平家康が三河を統一し
たので、三河の長官である
「三河守」みかわのかみに任官したいと考
え、朝廷に申請したのですが、
当時は何よりも家柄が大切
で、姓が「松平」で三河守に
任官した例はないと却下さ
れたからです。

やむなく、祖先の親氏が
松平郷に入り松平太郎左
衛門信重の婿になったことを
理由に、家康は朝廷に改姓
の申請をし、松平から、新田
氏の分家の得川(後に徳川)
に苗字を変えたのです。

豊田市松平郷の松平東
照宮は「松平氏館跡」即ち